

第36回 運動障害研究会プログラム

当番幹事 岡山旭東病院 神経内科 柏原健一

日時 2008年7月19日(土)
 時間 14:00～18:00
 場所 大日本住友製薬(株)東京本社 2階会議室
 東京都中央区京橋1丁目12番2号 TEL 03-5159-2540

14:00～14:10

製品紹介 長時間作用型 ARB 「アバプロ錠」

大日本住友製薬株式会社 学術担当

SESSION I

14:10～15:25

〈座長〉市民の森病院 神経内科 平田 温

1. Lemniscus medialis の梗塞により、失調症を呈した一例
 ○森松暁史, 飯國洋一郎, 白田明子, 山根清美 (太田熱海病院脳神経センター 神経内科)
2. 左半盲と家事遂行困難を呈した一例
 ○小國英一 (茨城県立中央病院 神経内科)
3. 前頭葉萎縮と著明な痙縮を認めた52歳女性例
 ○伊澤良兼, 鈴木重明, 伊東大介, 清水利彦, 高橋一司, 鈴木則宏 (慶應義塾大学 神経内科)
4. 全身麻酔下抜歯処置が奏効した高度 jaw closing spasm の一例
 ○野倉一也, 清水穂高, 東 文香, 山本繡子 (藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 神経内科)
5. 肝硬変に合併した RLS の一例
 ○小栗卓也¹⁾²⁾, 立花直子¹⁾, 杉山華子¹⁾, 山脇健盛²⁾, 小鹿幸生²⁾
 (^{1)関西電力病院睡眠関連疾患センター 神経内科, ^{2)名古屋市立大学 神経内科)}}

SESSION II

15:30～16:45

〈座長〉慶應義塾大学 神経内科 高橋一司

6. 多彩な神経, 精神症状を呈した一家系
 ○今村貴樹, 柏原健一, 大野 学, 河田幸波 (岡山旭東病院 神経内科)
7. パーキンソン病の治療中に亜急性に出現する体幹ジストニア (Pisa 症候群):
 ドパミンアゴニストの中止により改善した一例
 ○三輪英人, 近藤智善 (和歌山県立医科大学 神経内科)
8. 進行性核上性麻痺 (PSP) 剖検例の画像病理連関
 ○崎山快夫¹⁾, 齊藤祐子²⁾, 金丸和富³⁾, 石井賢二⁴⁾, 辻 省次⁵⁾, 村山繁雄⁶⁾
 (<sup>1)自治医大さいたま医療センター神経内科, <sup>2)東京都老人医療センター剖検病理科,
<sup>3)東京都老人医療センター神経内科, <sup>4)東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究所,
^{5)東京大学神経内科, ^{6)東京都老人総合研究所ブレインバンク)}}</sup></sup></sup></sup>
9. 脳性麻痺に対するボツリヌス治療の検討
 ○石川景一¹⁾, 林 明人¹⁾²⁾ (順天堂大学 ^{1)脳神経内科, ^{2)リハビリテーション医学)}}
10. 進行期～終末期がん患者のリハビリテーションガイドラインの活用
 ○林 康子, 北原えり子, 寺門厚彦, 長岡正範, 林 明人
 (順天堂大学大学院 リハビリテーション医学)

coffee break

特別講演

17:00～18:00

〈座長〉岡山旭東病院 神経内科 柏原健一

特別講演 「日常生活を重視したパーキンソン病患者の長期ケア」

植木 彰 先生 (自治医科大学附属さいたま医療センター 神経内科 教授)